

世界中で猛威を振るったランサムウェアについて

平成29年はランサムウェアが世界的に流行し、大きな話題を呼びました。ニュース等でご覧になった方も多いのではないのでしょうか。ここでは昨年流行したランサムウェアの復習をしていきます。

*ランサムウェアとは・・・

感染すると、コンピュータ内の画像や文書等が暗号化され、利用することができなくなります。

犯人は暗号化したデータを人質の様にデータを復号するために金銭を要求します。

「身代金」を指すRansom (ランサム) が語源となっています。



WannaCry ワナクライ

5月初旬に国内においても大手企業が感染し、ニュース等で大きく取り上げられました。Windowsの脆弱性を狙い、ビットコインを要求するランサムウェアです。ワーム型と呼ばれる自己増殖するプログラムで、LAN経由で次々と感染します。

Petya ペタヤ/ペチャ

6月下旬にウクライナとロシアを中心に被害が広がりました。ファイルだけでなくOSまで暗号化され端末自体が起動できなくなります。なお、犯行当時に使用されていた金銭の支払先のメールアドレスは使用できない状態になっているようです。

Badrabbit バッドラビット

10月下旬に発生しました。犯人は正規のWebサイトの脆弱性を利用してマルウェアを埋め込みます。被害者が改ざんされたWebサイトにアクセスし、偽のインストーラーからファイルをダウンロードすることにより感染します。

被害にあったときは

- 感染端末をネットワークから切り離す。
- システム管理者に速報し、組織で対処する。
- 金銭を支払うかは慎重に検討する。
(金銭を支払っても復元されるとは限りません)
- 復元ツールを利用する。

(注意：不具合が起きる可能性がありますので、利用については慎重に検討してください)

被害にあわないために

- OS、ソフトウェアのアップデートを確実に実施しバージョンを最新の状態に保つ。
- 不審なメールの添付ファイルを開かない・リンク先にアクセスをしない。
- バックアップを作成し、ネットワークから切り離して保存する。



- ランサムウェアだけでなく、様々なサイバー犯罪に関する相談を受け付けています。
- 社員の方に対するセキュリティ教養に関する相談も受け付けています。

平成28年～平成32年

「めざそう！
安全・安心・日本一」

ひろしまアクション・プラン

運動目標

県民だれもが穏やかで幸せな暮らしを実感できる
日本一安全・安心な広島県の実現

重点項目

- 身近な犯罪被害の抑止
- 子供・女性・高齢者等の安全確保
- 新たな犯罪脅威への対応

なくそう特殊詐欺被害

アンダー
5 ↓
作戦

なくそう交通死亡事故

アンダー
75 ↓
作戦